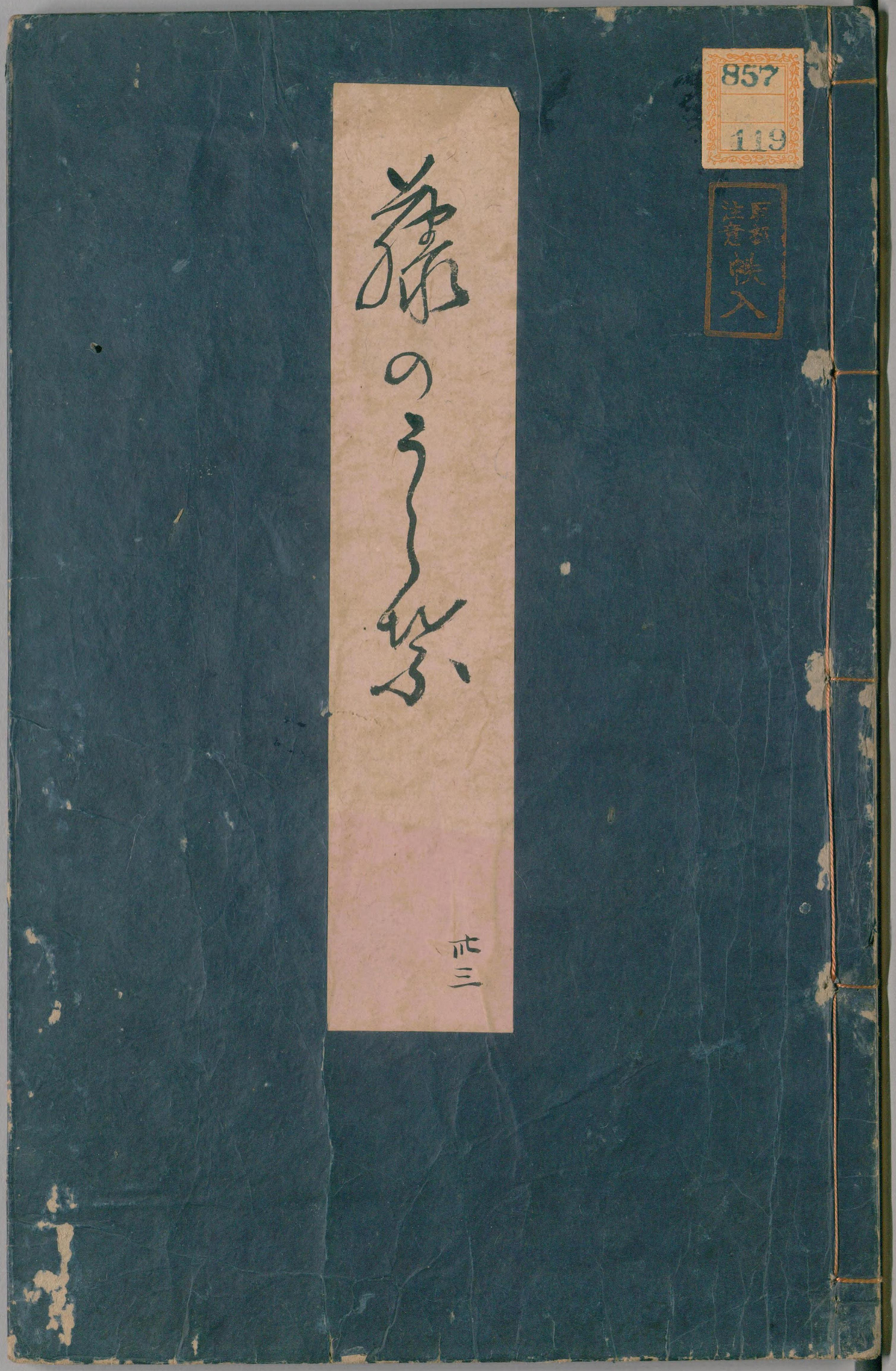



857
119
注意 帙入

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-119
ガラス使用

857-119

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-119

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-119
ガラス使用

おぼす。う月ついたちごろのおまへの藤の花いとお
もしろうさきみだれてよのつねのいろならず。
たゞにみすぐさん事おしきさかりなるにあそ
びなどしたまひてくれゆくほどのいとゞ色まされる
に頭中将して御せうそこあり。一日の花のか
げのたいめんのあかずおぼえしを御いとまあら
ばたちより給ひなんやとあり。御ふみには
わが宿の藤のいろこきたそかれにたづねやはこぬ
はるのなごりを。げにいとおもしろきえだにつけ
給へり。まちつけ給へるも心ときめきせられて
かしこまりきこえ給ふ。

夕霧ノ詞

なか〳〵におりやまどはむ藤の花たそかれ
時のたど〳〵しくはときこえてくちおしくこ
そおくしにけれとりなをし給へよときこえ給ふ御
ともにこそとの給へばわづらはしきずいじんは
いなとてかへしつ。おとゞのおまへにかくなん
とて御らんぜさせ給ふ。思ふやうありて
ものし給へるにやあらん。さもすゝみものし給はゞ
こそすぎにしかたのけうなかりしうらみもとけめ
との給ふ御心おごりこよなうねたげなり。
さしも侍らじ。たいのまへの藤つねよりも
おもしろうさきて侍るなるをしづかなるころほひなれば。

アヒトアカハナノト
二文ニテ注ル也
非参議ノ事職
原抄ニ字数多也

うびせんなどにや給へんとや行。(ほゝ白)ぎとつゝひ
さゝまさりけるとぞやうもはし給へとゆゆし
給へ(何トシ又ヨビニクシタトタ事ノトハ心ニクルシキ)ばいかなるんとおもふこまはらるしうさぐなるぞ。(ほゝ白)
(立ノ製也)
としこそあまりこゝろぐてぞろびさめれ桃茶議の
(又事宰相也)
りどなかゆとなれまろ人こそ。ぞこあひはよかれぴ
(ヒキツクロウナ行玉ト)
さつくろはまんやとてぞ(ほゝ白)ぶ(ほゝ白)まうのんしとなるに。
えなしぬ(ほゝ白)ぞどもぐしてて(ほゝ白)ともにもこせてぬ
てまつまゐらしぞ(又事ノ承也)ぞ(ほゝ白)かゝまてんづるひいえじう
(ツクロフテ也)
きぢうしてぞそうれもすぐ(又ハ内府ノ事ニ行美ル也)ぞんやましこさりどに
まうで行へまぞあるしの志ぐらぞ(柏木)ぞとしじめ
(内府ノ子也)
て七八人うちつまてむかへまなもるいげまとなく
(七八人ノ元ガ内ヨリ)

おしきうくらどもなれどなれ人にすぐれて(又手事ガ)
あざやうにきこゝらなるものゝ(ヨリツキ也)なつりしうよ(ヨシアル也)
づきたづしげなりぞあ(内府)とおましひさつくろ
ませるどし給へ(ほゝ白)よういとろうなるぞ(ほゝ白)内府ガ
ふりなどし行ていで行とて(内府ノ)ぞ(ほゝ白)ぞ(ほゝ白)ぞ(ほゝ白)
などにぞのろさてみ給へ(ホメタ詞也)とうさくにねびまさ
(タ事ヲ)
る人なりぞ(ユシラヘ也)よういなどしづるにものくしやぞあ
(ハニヌキ也又也)
ざやうにぬけいでぞよすけるかゝ(ほゝ白)ぞ
まをまさりざ(ほゝ白)にこそあめれうまさしたゞいと
(ほゝ白)
せらになの(ほゝ白)めりしうぞあいぎやうづきてみる
(いらレシキヤウ也)
ふるまにしく世中にまするくんちぞし行。(天下ノ政ナリ)

やけざ海たゞすこしたたれてあされたるかたな
まし。とりぞくし。おれハ(タギリ)ばしの(ヨリ)こさしもまさ
まんもら井おくしくすくよりにしらひ
とよよおぼし(世上ニモ云)ぬめりなどの行ひて(ヨ)つくろひ
てぞたいめし行(タギリニ)抱まめやうにむべくしき(ヨ)
抱くさりハすこしぐりまて花のまうどもよう
つり給ぬ。長の花ハ(ドノ花モヨキ)ばれとなく皆ひらけいづる
色ことにめ抑どろぬハなれとんかしくうら
すてくちりぬるがうらめしうおぼ(ヨ)ろこころ(ヨ)ひ。
これ花乃ひとりたらそくれて。夜よさ花かゝる
御どなんめやしくんよろくあそれよおぼし給ふ。

拾遺
夜はこえ以かも
けれ花の花まさ
とのこゝとも思ひ給ふ

いろもちくさなつしきゆりまゝ。しきべしとて。
(内府ガ)うら(ヨ)ほく思ふ給へるうしきありてよりひきよ
げ也。月ハ(ヨ)しかぬまど花のいろさくさうまをみし
ぬ程なるをもてあそぶよ。(ヨ)をよをておかみ花
まいり(ミ)あそひなどし給ふ。(内府)おとゞ(ヨ)ばどなく
うら思ひをし給て。みぐりぐしく(ヨ)夕(ヨ)ヲ思ハ
し行をぬ(タギリ)ぬ(モモサシユルサレウカト心モチスル)していくさ。(アラハラ)とまのひなやめりぬ(タギリ)
みハすす思の世よりおまりつまのであめれ志くこのいう
うくよをのし行めるを。(内府)よりひかりぬるへ(ヨ)思ひ
すて給ふなんつくりうる。(モ)文籍(ジヤク)(書地)まを家礼(ヤライ)とい
ぬ事あるべくやなわぶしのをしへをよくおぼし
(後世ナドナシ)(ヌトシ)

有職
史記

しるるんと思給ふるとぞいとうんなるやまし行とロヌトし
うらみ雪の色べくなむなどの行ひて忍いな紀ものや
おりしき程にかしきだに給へりでむしをれ
もふ給へいづる泊かたりどもに翁をすつるさ泊
まをとこそ思給へしまし給るといかに泊給しな
しきとまる給ふんもとよりをろかなるんのおこ
ありにころとりしこまりきこし行泊とき
よく泊うど紀てふらのうらいとうらずもし
行へる泊かしきを行ひて泊中ね花のうこく
しとにふさながき紙おりてぬすのうとの泊さう
づさにくちぞとりてもてなやむにおとく

紫ノ花ニ女ヲ名ハ紫ノ

もうさ紀にくごとハうらんふらの花まつよ
里すぎてうれしうれどを常ねさうづきをしら
あがらぬしきだらりたいしてまつり行ふ
さまいとよしあり
いろへりなけさまをとうぐしきて花の
ひもとくおりにあふらんとうの中ねに行へだ
たをやめれ袖にまのがへる花の花みるへうらや
いろもまさらんつぎくぞもしながれおれうめれど
ひのまざれにいろぐしらで見まりまのき
らぬ七日の夕月夜新のうなるに池のかくれ
のどうにすゝわられるもげにまのざれのうなるに

ずゑとゝをさうくしき比なるよいといふ家也
だゝこゝのことゝされる松のこゞろ花ゐにはあらぬ
にかくれる花乃松よのつゆなるべおもしろしまい
乃雨かねしゑいとなつしうてあしが花をう
たゝ花とゞいとけやけうもつうまつるなど
うらゝぶれ行ひてどしへにゑるこの歌のとうち
くさへ行へる浦あるいとおもしろくあしき所は
みぐりがしきあうびまて相思ひのこらぬ
なりぬめりやうく春ゆけ行ゆどよいくゝ宣
なやゝをしてみぐりんちいと多へぐくてまゐる
てん宣も初ぜくしくこそ侍ぬべれとの井

所ゆづり行てんやと申ねようれへ給ふ花とぐ
鶯はやはやすゝどころもとめよ花さかいくう
ゑひすゝてむらいなれバまゐりぬといひ
すてゝいり給ぬ申ねもなのうげのこびねよい
うよぐやぐるしきゑるべよぐ侍るやといへバまゐつ
おちぎれるはあぐなるもれうへゆくしやと世
め行申ねハんのうちよねくのまざやとゑふ所
あまどぐぐ夜乃思ふさ夜よめでゝ花よぐうも
あらなんとんよをわくることなれだうしろや
もくみらびきひ花とこ花ハ夢うとおぼし行
まゝまゐみいとゞいりうしうぞおぼし行もむ

うしぬ（モサ）いとたづしと思ひしこそ捨し行も
孫びまされる（モサノカタチミ）法ありさ海いとゞあるぬ所なく
めやすしよの（スギリノ白）あめしまゝなりぬべかり法る男（すれシタアヤニリハヨノメメシニモナラシヲ我ガツ）
をんもてこそうくまでをおぼしゆる法るめれ（心ヲウツサナニヅ）
あたれ（モサノ）をし里行いぬもさ海ことなるまぎれ（カクナリタト）
とうゝアんきこゝ給おねのすぐみいたし法る（おノ作る事也）
あしが紀乃をもむきハぷらとゝめ行つやいく（モサモ事ニトニリハセナンズヤト）
きぬしうなゝ川ぐらのとこそ法しいくまゐ（川クチトトリナシテウヌヒタヤヤリツレドモト）
うりつまとの行へば（モサ）女いときくぐるしとおぼして（内方付ガニモリテモ色フタトノ玉）（バヤグ）
あさ紀ゑをいひあがしをる川ぐらハいくぐ（ヲヤノ名ヲ）（ヲ）
もうしくせきのあらう紀あさましとの給ふナト（ヲ、モラシ玉フ）

川口のせきのあらうきまゐしとも
ぬてアれねぬたのび
くゝよ

兼夏関 異列

さ海ぴとこめ紀さりぷすましうちまゐひて（スギリガ）
もりまけるら紀だのせきとかたぐら乃あ（リキダト云アヤニリ）
さきまのこハおかせばらるん年月のつもりも（川口ヤニテハナキドユニモアルト）
いとまりなくてなやましきまゐおぼしずと（ヲ、アヒニコトツケテ）
思ひまうこらてくるしげまもてなしておくる
をしすぐかなりへく（行ヲシ玉フヲ）のこまづらふをぷすぐ（内方付）
しくりがかなるあきいかなるどこゞめ行されど
あかし（アケズニシキル）いそぐぞいで行ぷくたれの法あきがか
みるひありし（スメバアケハテニオキル）法文ハ（おニモシノビテ文ヲ）ゑしぬしけびよりしる
さ海のんづうひまてあるとぷしくかしまゐ（内方付スルシ玉ドモシノブ）
行ぬをぬいひ法がかさおぐらつきしろふま

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-119

ガラス使用

まがかたきうおもひがほにおろかごりして
すれぐしきんだへなどもらし行なさこそ
おひらうにおかきなるんをきてとゑ田れど志
たのんだへおれ男くしうすくせありてゝみえにく
さ取つき行へ人なりなどまいのをしへ男ぐ給
とうらあひめやすれ此あいひとおがぬる此
どもみしぞすこしかぬのうこだうりとみし行
おかくまてハおかじうかをうつしとりさうと
みゆるとおまへまてたさ海ぐあかめでたとゑし
行へ里おぬうすき此なとしたろきぬが乃
うらめ此ゆるがもんけざやうに此やくとすき

源三十九又雲
十九や

うらをとてまつりてなる後つさせびあてまなま
めしうおりしまゐ宰ねどのハすうしゑ
きぬなとしまゝ子ぞめれおがるゝまでしめるし
ろきあやのなつしさ後きおうりしとゆらめ
きてえんにみゆ（田ハ日や）ぐたん佛ぬてさてまつりて。
此導師をそくまいりられ首書て此ぐ（百ノシタシキ元）
よりまゐらべいごしかをなどおるやけざ海り
うたらびんぐにしたゆ（奉師ニ）まぬ（布服）まへのさゆうをうつ
して志ぐらなどもまいりつどひてゆくうう
ちしきぬ（天子）およりもあやしうんづうひせられて。
とうしがらなりゆ（クギリ）さいねたしげんなくいよくけ

さうじひきつくろひてお行をやぎとなりはど
なさけぶら給ふまうんはうらめしと思ふもを
あわれとしけのつもりとりうへて思やうな
あれはなりひなめまだ名もこゝんやはあるし
のたゞ定いとしきちりまさりをうつくしき
抱におぼしていみじうもてかしづき宮し行。
まをぬうらこのはおしさまたな後おぼせどつ
みをのこうまじうそまめやうなるはんざ後な
どの年ごろとんなくてゐし給へるなど後
をうこうおぼしゆる女はのはありさ後などと
かりをたるやうよめでこゝあらまほしけれど

いそくを期さ
こゝるまゐん

ゆきさゝめんくなどいんよりぬ思ひつゝも
あまどなおのゐるしき事うあらん。あぞらのれ
もなどもかゝるかたにてうれしと思ひきこゝ給
ひりぬくて六条院のはいうざは女ゝあまりの頼
なりけりたいのうへみあれにまうで給とて逢
いのはすくいざなひ宮え行へどぞ申くはしもひ
ひきつゞきてんやましきをおぼしてこれをく
とまり行ておとくしきりどてあるじはは東
女ぞりしてこぞんなどをうざくしきへ
うずおもくもあらずまうざうしをけれひ
となりぬまつりの日乃晩にまうで行てぬへさ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-119
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-119　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-119
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-119
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-119
ガラス使用

なり給ぬ御ようこびにお行ひかりやうぐまのさ
里給ぬ後かさらよりもしめてあるぬ事をな
さきとあるじ（大ぬ上臣）のおとゞもなるく人にとされ。と
さまじこさ変ばかへよりやとおぼしなる女（中井）の
たいふのめれと六位すくをとつぶやきしよひ（おぼし）
ことをのあるくにおぼしいでそれだきくのい
とおましろくうろひたるとたまはせて
あ（六位ノ）ぶどりまるの菊と春のまてもこ（中宮ニナレバ）記む
らささのをとうけ（田邑ヤケナンダトシ）さやかしかりしおりのひ
とことにこそますれねといと自ひやうに泣く
ゑ給へりぶ（メノトガ）しいとおしきおうらうつ

ちうこ事ある
ぬ立しし
ふさだより名さるうれのきくなれだあ
さ（アサキ女トハテ是ハセヌし）いろまく春もなりきいりまんをうせ行へ
日
ゆうにもふたる
夜の面をんい
ひまさりてかゝ御ぬすまま井も所せくれば三（大妻不し）
条どのにまゐり給ぬすこしあまにまゐる越
いとめでたくすりしまして（終夜し）変のおはしし
うゝ後あらさめしつゝひてぞすこ給ぬしに
ぶ（福田ノ）ヲ思ヒテ
おぼしてあたれに思ふさ後なるゝ御ぬをまゐなり。
お栽どもなどちいさ此本どもなりしを。い
としげさうげとなりぬとむらずくきもんに

白示天
たゞ
君うへし手
らすきあのさの

まうをもみぐれたりけるぽくろたを釣つやり
あのゆくさもゆくめてぴとんゆきくろ
かしこさなりおりしきゆ善の釣どをゆく（タキリトモヰト）
なぐめ給ふてあさましかりし世の酒おさなし（ツサナキ）
さの掴がくるまなどし行ふまこ（大宝ねたつ）しさあしを
にわくぐ人のおもひかんとも（夫行ニナリタルヲ）もちづくしく女ゑ
おぼしいぶかる人どものまのうでちらずぎうじく（大宝ニツカウレタ女房也）
まさふらひけるなどぎまうのがりあひまりて。
いとうれしと思ひあへりおとこ（タキリ）ゑ
なれこそハ岩もるあるじ（大宝ガ天玉ハ子バ）みへの釣魚は
志るや宿のまし（スミタ女ヲ云）みづ女ゑ（モヰ房）

（大宝ノ）なれ人のうけぐにみたすずつまなくてんとや（ハラシテイルトル）
まろハ飾る井の名などの給ふ釣どにおとぐう（ゆ養）
（小キ井ナリ）
ちよりまうで行かるぎ家のいろにおどろ
されてまこり給へりぴしかたしまひし（大宝ノ）
おりさ海におさくうちる事なくおとりく（名ヲ上ナドノ王示し）
おとなしくまま内行へるさ海ぬるやうなる
と凡給（おぼかぬ）につけてもぴとこの衣におかれ給ふ中納（タギリ）
こそもかしきことにぴかすこしあるみていとぐ
志げまりても此し給ふぬるまの釣しくうつく
しげなる酒あたひなれど女ハまのぐかるかたら（モヰ）
のたぐもしもなぐろなくんとみて給へりおとこハ（タギリ）（ヤウナハ）
（モヰホドノ女モアルヲ）（アランドレ）

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-119
ガラス使用

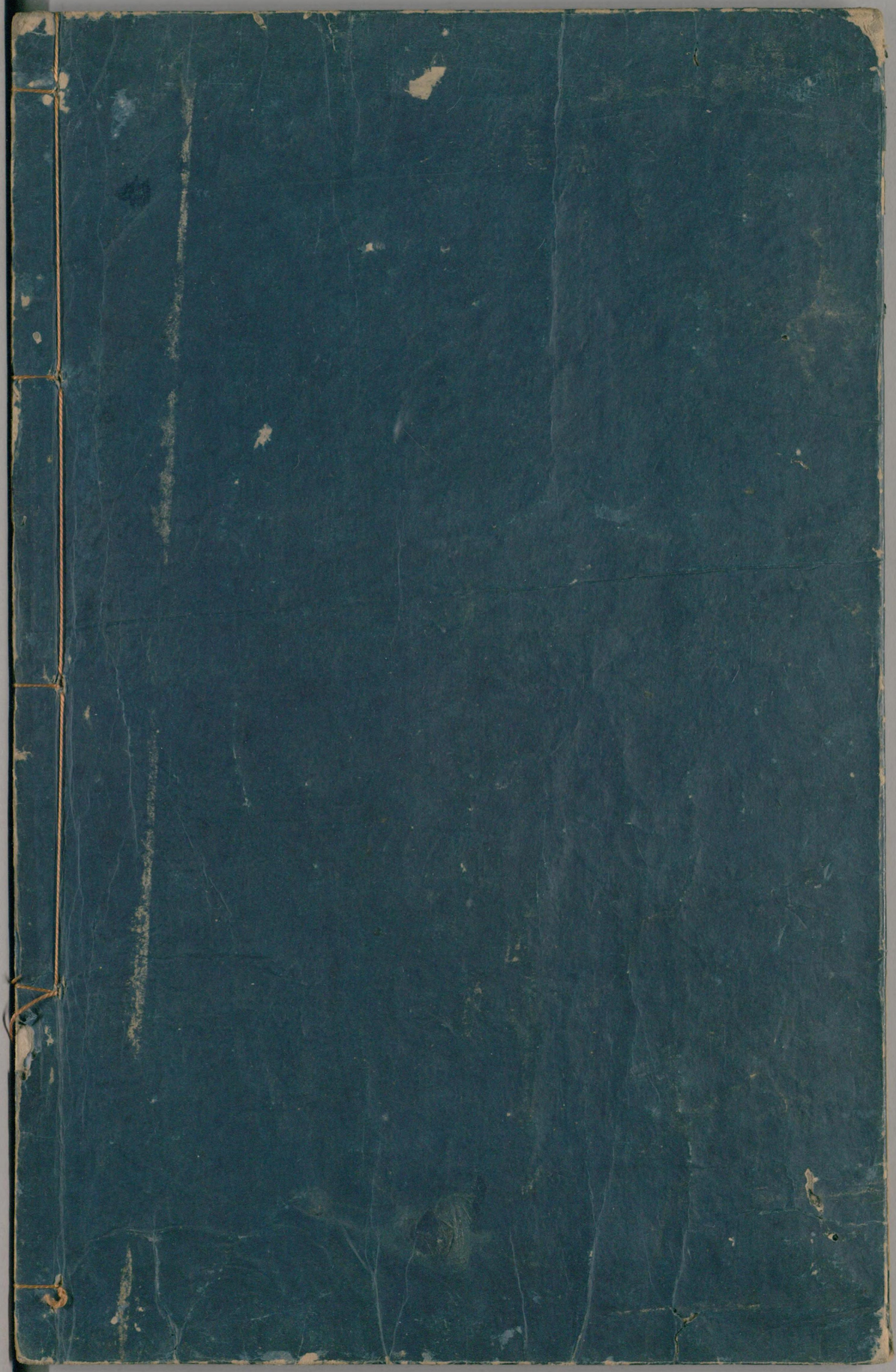
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-119　　ガラス使用

857
119

弁のおもとの心思すぐ連ぐらぬ絵けるべきは
こそとゞんくさる法にあるらひなのあり
原やおもとさり

お世ノヨキ宮様
アリテカ此ヤウニ
アルカトし

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-119
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-119

ガラス使用